

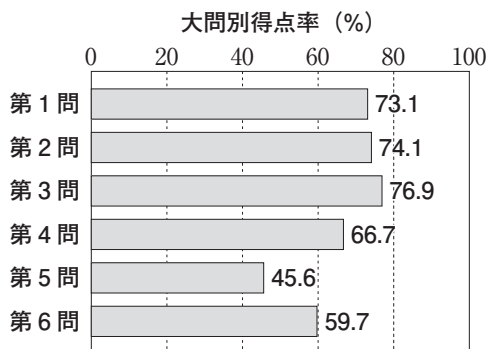
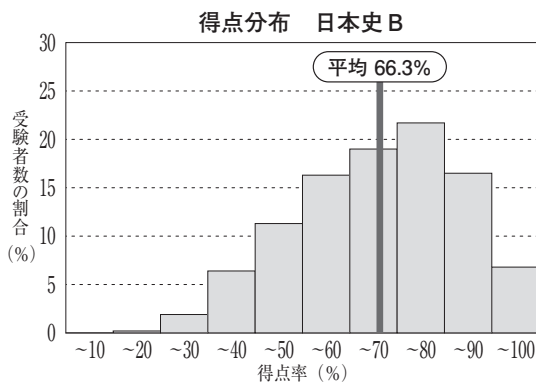
日本史B

もっている「すべて」の力を出しきることに集中せよ！

I. 全体講評

はやいもので、2018年度のセンター試験本番レベル模試は今回で最終回を迎えた。直前期の今、さまざまな「想い」も交錯していると思うが、目の前の課題を克服することに集中していこう。

最終12月センター試験本番レベル模試の平均点は66.3点と、前回の54.8点を10点以上も上回った。一気にギアをトップにもってきただけの印象だ。小問別に分析してみると、正答率が7割以上確保できた小問が36題中15題と、全体の40%にのぼった。しかし、その多くは古代史から近世史までの問題で、近現代史を中心とした第5問・第6問では、たった1題のみであった。つまり、安定感はあるものの、近現代史はまだ、「詰めきれていない」印象を受ける。最低でも1990年代までは目を通しておくこと。



本番でもっている「すべて」の力を出しきることに集中しよう。朗報を待つ。

II. 大問別分析

第1問 金属の歴史

未習箇所の点検とともに、既習箇所の再点検により得点力の向上をはかろう！

金属の歴史をテーマとして出題した。過去のセンター試験本番レベル模試と類似した問題も出題した。既習箇所の再点検により得点力の向上をはかってほしい。

第1問の得点率は73.1%と幸先の良いスタートを切れた。正答率が5割を下回った問題は皆無で、問1・問2・問4は87.1%、85.7%、83.5%と、非常に好調であった。とくに問1は、センター試験日本史B特有の視覚教材を提示した問題であったが、しっかり対応できていた。一方、問3の正答率は52.9%とやや苦戦したといえよう。誤答③の「撰銭令」が発布された「時期」について再度、点検してほしい。繰り返しの学習により、理解を深めていこう。

第2問 中国に渡った留学生・学問僧

対外関係を学習する際には、それが内政や文化に及ぼした影響まで考察してみよう！

中国に渡った留学生・学問僧を取り上げ、政治・外交・文化の分野から出題した。留学生・留学僧が日本にもたらした制度や文物について、その影響を考察してみよう。

第2問の得点率は74.1%と、第1問につづき7割を突破した。「吉備真備」について問うた問4の正答率は95.0%と、小問36題のなかで、最高の数字であった。これに続いたのが空欄補充形式をとった問1で、88.7%であった。本番でもこの形式の正答率は非常に高い傾向にある。裏を返せば、ケアレスミスは大きな失点になるので、細心の注意を払って問題にあたろう。

第3問 中世の文化

文化史は「関連付ける」作業により、理解重視の学習にシフトしよう！

仏教や往来物など、中世の文化を取り上げた。文化史は通史と関連付けることで、理解重視の学習を進めよう。

第3問の得点率は76.9%と、大問6題中、もっとも高い数字であった。問2の正答率65.2%以外の問題は、すべて7割～8割台の高水準であった。文化史に対する苦手意識が払拭されたといっていよう。問2の時代整序問題では、誤答①を選択した受験者が13.2%にのぼった。室町時代の入りくんだ歴史事象の「時期」に関する理解が甘いようだ。教科書や図説集などに掲載されている年表を再点検してみよう。

第4問 参勤交代

史料読解タイプの問題は、多くの時間を要すことから、時間配分に留意しよう！

参勤交代をテーマとして取り上げ、近世の政治・社会に関する問題を出題した。問5のような史料読解タイプの問題は解答を出すまで時間を要する。本番では余裕をもってあたるよう、時間配分にも留意しよう。

第4問の得点率は66.7%と7割に届かない結果となった。正答率をみると、最高が問5の84.0%、最低が問4の44.3%と好不調の波が激しかった。問4は誤答②を選択した受験者が40.4%にものぼった。尊王攘夷論に関して理解の浅さが露呈したといっていよう。幕末期の思想の特徴を理解しながら点検にあたってほしい。

第5問 幕末・明治期の北海道

定番の「グラフ」や「表」への対応力を、過去問演習により養っていこう！

幕末・明治期の北海道をテーマとして出題した。センター試験日本史B第5問で定番となっている「グラフ」や「表」への対応力は過去問演習によって最後まで鍛えぬいてほしい。

第5問の得点率は、45.6%と5割を下回る不本意な結果に終わった。低迷した最大の要因は、問2が10.0%という正答率であったことだ。誤答③を選択した受験者は60.8%と正答④を大きく上回った。つまり、選択肢文の「畏」に多くの受験者がは

まってしまったことを意味する。Yの内容の解答解説を咀嚼しながら読み進めてほしい。

第6問 近現代の保守政党

得点配分の多くを占める政治史を、他の分野との関連性を重視しながら復習し直そう！

近代の保守政党を題材に、明治後期から55年代体制の確立まで、広範囲にわたって出題した。例年、政治史はもっとも配点が高い。最終段階にある今、原点に回帰し政治史の全てを見直してみよう。

第6問の得点率は59.7%と6割目前であった。これまで、近現代史で失速するケースが多かっただけに大きな進歩だ。問2の時代整序問題の36.8%は気にかかるが、全体的に安定していたといえよう。ただ、選択肢4つの正誤問題は、2つを削除した上で残りの2つで選択を迷っていることが数値から伺える。「迷わない」知識を本番直前まで貪欲に習得していこう。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆冷静沈着に深く考える**

みずからが自覚する弱点となっている箇所時間に時間を割いていくことが重要であることは言うまでもないが、得意としている分野も最後まで点検を繰り返すことで確実に得点できる態勢を整えておこう。その姿勢は「自信」につながり、選択肢文を冷静沈着に深く考える余裕が生まれるのである。

◆模試の総点検

これまで受験したセンター試験本番レベル模試を総点検してみよう。その際、失点した箇所の解答解説をじっくり熟読する作業を繰り返し行うとよい。失点した箇所の要因を分析することで、正解を選択する確率は飛躍的に高まっていくことを指摘したい。

◆機は熟した

全ての想いを一筆一筆に込めてほしい。

機は熟した。真理を追究する「大学」という場所で、君たちが真摯に学べる日が来ることを、切に願う。

一ひとりひとりに天の使命がある一

渋谷栄一